

對伯投資問題

新大使に望む

先ごろ日本資本の伯國流入説が流布された、その出所明かでないが、これはイタマラチの北米率制策であるといひ或は某々商業ゴロの妄想であるといふが眞偽の詮索はしばらく措きその公にされた計畫が恰も伯國側の希望と合致するところより英米以下従來の對伯投資の購を冷やすに、折柄歐米訪問中のコスタ相も之によつて商議に際し意外の儲けものとしたではないかとさへ思はれる程である

國際關係の混濁としてた時代においては移民が國際親善の機として重要視され事實主要な役割を演じたこともあつた、然しながら其後漸次移民の重要性は失はれこれに代つて資本が暴威を振ふるようになった、ナショナルリズムの盛んに唱えられる昨今凡ゆる點において他國の干渉を排除せんとする氣運濃厚になつたかを見れば、これは表面の體裁を執るに過ぎず内實は資本の前にグーの音も出せない事情に在り従つて資本國との親善關係は主義、理論を超越した必要事となつてゐる

これを通過關係より見るも國產品保護あるは貿易統制の名の下に行はれてゐる關稅障壁の樹立、輸入禁止、割當制度、パターシステムの設定など名目上の根據は十分立つたが適当な用範圍を仔細に點檢するとき背後に資本國の指令あることは看過し難き事實である、従つて自國資本の存在しない國において通過商の自由さへ阻まれ勝ちで各國から通商條約廢棄の通告を受け常に苦汁を嘗めさせられてゐる現在の日本がそれである

新任澤田大使は日伯の親善は兩國通商貿易の促進から、と信心の下に着任し、今次實業團の訪伯も大使の奔走與つてありと聞き及ぶ、移民の外にラジルの名さへ思ひなげなかつた時代に比し大きな進歩といふべく大使の努力に期待するところなるものがあるが、單に通商貿易の促進のみを以て日伯永遠の連鎖をなすものとの考察には猶一分の頼りなさを感ぜざるを得ず、これは宜しく更に一步を進めて資本の一大根柢を土深く下すべきものと考へる、折角大使の考慮を煩はす次第である

廣田協和外交の對支方針確立す

聯盟の行動を嚴重重視

廣田外相は今大議會における外對方針を明白なる如く、協和外交の實現によつて東亞の安定力として東亞も熱心な山崎相を始め後藤内相、内田外相の三閣僚は豫算總心に資するもので、この平和は實に日支提携によつてのみ達成し得べく若し支那にして眞に自國の利益を求むるならば、凡そ援助を惜しまずとの方針を堅持し、支那に對し積極的のこれが具體的行動を期してゐるが、最近支那側針乃ち實情に即していかん對策を立てべきかに関し相違が達んだ意見の交換が行はれ途中床次連相も参加しよく、爆彈動議の清算期も迫り政府外交の動きは注目すべきものがある

即ち 帝國政府は國際聯盟の眞意を了解し支那に於て無用な通過列國相提携し技術的援助に藉口し軍事的援助、政治借款を起す等の政治的行動に借すに於ては結局支那内部に列國勢力反映の設定となり、支那の復興を妨げ果は東亞和平の擾亂となる

かくの如き第三國の行動は斷乎排撃するもので漸く支那が自覺し自力更生に向はんとする矢先には特に重大なる關心を有する所以である、果してアリス氏が今後いかなる行動を執るか、又若し技術的援助より超脱せる態度に出る時は支那がいかなる影響を示すかは日支提携に對する支那側の試金石とし注視される

聯盟アリス委員長 國際聯盟 日本を素通り 對支技術援助委員 寄港せるアルベル・アリス氏 長として支那へ赴任の途横濱へは重光次官と會見の上、對支問題に關する意見の交換をなすものと期待されてゐるが、これは行はず同氏はエンプレス・オブ・カナダに乘船のま、廿七日横濱出帆支那へ向つた

支那航空設備

議會で質問さる

廿一日の衆議院總務會席上池田秀雄氏民政黨滿洲部問題に關して高橋藏相に質問、次いで八角三郎氏政友會海軍問題、外交問題を中心質問を試みたが、八角氏は特に支那の航空設備に對する如き一問一答を廣田外相となした

八角 支那の航空設備に對してその後外相はいかなる處置を執つたか

外相 その後には執行したといふ様な處置はない、嚴重警戒はしてゐる

八角 その後支那における各國の状態を見るに據つて飛行機を送り昨年正月總數五百機であつたものが最近では七百機に達してゐる、支那における航空の發達を國防上如何に考へるか、外相に積極策なきや外相 未だ質問にあるが如き事はない

林陸相 支那における空軍の設備に對して注意を拂つてゐるが未だ對策に注意するが如き事はない

大角海相 支那における空軍の設備擴張に對し未だ對策を考へてゐるが如何に

と夫々答辯するところであつた

政友和協工作

三大臣協議

【東京四日】今議會の動向を決すべく爆彈動議の跡始末に關し

東京都制案

今期議會に提出の案であつた東京都制案は

【東京九日】今期議會に提出の案であつた東京都制案は、何れ他の大都市にも適用される關係上不備の點改正の必要認められたので後藤内相は一般狀況を考慮の結果本日第二分科會を開き今期議會に該法律案提出の意をき旨言明した

女學校國語教科書
一年より五年まで全部至急譲受
度し

五生會書店
聖市コンセルロ
フルタード一九九番

求青年

本田 果樹園

Mogy's Course - E.P.C.B.

パンガロー賣る

日本病院敷地、三軒の建物を

パンガロー賣る

五乃至二十間中賣度し、御

照會は

Rua Jorge Thibault, 29, 91-96

電話 1-5555 又は 3-1000

とまかわ

慢性衰弱症
胃腸諸症
虚弱乳幼児
妊産婦衰弱
疲勞老衰
輸入元 羽瀨商店
聖市 郵函一八

慢性病は
家庭の不和を來す
リョウマチ 神経痛
胃腸病 婦人病
産後の経過不良
落膽せし一度尋ねられたし
パウリスタ線チンピラ驛
山下文雄方
田中新五郎

Dr. Mattos Barretos
R. E. Vista, 25 - 7 and. Tel. 2-1743 S. Paulo

耳鼻咽喉科
専門 醫
ドットール
マツトス
バレットス

醫科大學助教授、
維納、巴里、伯林
病院三ヶ年勤務經
驗あり

Camilo Teixeira,
Praça Olavo Bilac, 16
S. Paulo

Casa Alemã
Schädlisch Oberl & C.
Rua Direita, 16-8

カーザアレマン
夏物特賣
愈々最終週間に入りました
是非共弊店の特別大奉仕を
御利用下さいませ
品物は各種各様豊富取揃へ値
段は誰方にも御購め願へるほ
ご格安で御座居ます
奉仕的大廉價特賣

Cia. de Terras Norte do Paraná
Rua 3 de Dezembro, 48 - 2º andar
Caixa, 2771 S. PAULO Tel. 2-2435

當會社植民事業第一期賣出地は賣却完了し本年度より遂次第二期工作進展中に御座候
此等地域の中心地、ロンドリーナを始めノバ・ダンチヒ、ローランジア、エミタールの諸市街も創設年度に比例し各々
急激なる發展を致し居り候
當ロンドリーナ町は此の度巴拉ナ政府の認める處となり、ジャタイ郡より分離、獨立、昨年十二月三日附官報を以て廣漠
七十餘方アルケレスのロンドリーナ郡、郡制の發布を見、郡役所の所在地と相成り市役所、公證役場、裁判所、銀行支
店の設立、警察署、郵便局、中學校、病院、水道、電氣其の他一般文化の強化擴大に邁進中に御座候
現在戶數六百餘軒、人口三千餘人、カトリック教北巴拉ナ傳道中心、ビスポの所在地に御座候
前記諸市街との連絡は毎日三回定期乗合自動車の往復及午前と午後二回個人乗合自動車の便も有り一般植民者に取ては
非常なる便宜を興へ居り候
當日本人部に於ても當會社分譲計畫に順應し、第三市街地ローランジアを土地賣却の本部となし、第四市街地を中心として理
想的優良地帯と決定、貫通道路を開鑿、近日中一般に發表致す可き所存に御座候
尙ほ此の機を視察は一般に疑問視され居る北巴拉ナ農作物育成の現状を見られ第二の飛躍を決せられんとする士に取て
最も効果的かと懸考す次第、且又ロンドリーナ、ノバ・ダンチヒ、ローランジア附近に於てセグンダモン御希望の方
は現金出持出成れば比較的安易の土地を斡旋致す可候
同じ土地を求めらるれば國際的此の地を選んで第二の故郷といたしませう
北巴拉ナ土地會社 氏 原 彦 馬
日本人部總代理人

日本人諸賢よ
新し肥沃で、しかも安い借地
料の土地があるにも拘らず、何
故わが古地を働くのですか？
荒蕪した古地を働くのですか？
そんな愚は斷然排撃して、ア
ルカ・ソロカバの一市街に
近いカンチド・テイシエイラ
の二千城の優良處女の借地
を御勧めします、棉作種穀に
最適、氣候上々、水質優良
最上條件揃ひです、御照會は
Camilo Teixeira,
Praça Olavo Bilac, 16
S. Paulo

C.I.P.R.I.
Companhia Imobiliária Paulista de Reembolso Integral
Rua Boa Vista, 6 - Caixa, 2793 - S. Paulo

優秀林植民地分譲
一、植民地分譲は十アルケレス以上、四年八年十
二年の年賦にて分譲す
二、希望植民者に鐵道無料乗車券を出す
三、植民者のために金融の方法あり、保險及抽籤法
併用に依りて土地代金全額其他費用を拂戻す
四、植民地は地質一等地帯にしてソロカバナ線ブレ
シデンテ・ウエンセストラウ驛より十キロ乃至二
十キロ
五、詳細なる日本文案内書を送次第送呈す
六、御來社は毎日午後二時半より
聖市ボア・ビスタ街六番、郵函二七九三
聖州不動産償還會社

M FURUZAWA
CIRURGIÃO DENTISTA
Rua Barão Duprat N. 31-A

齒科醫
古澤基

聖市パロン
ゾアラウト三A
電話二二四九

HOTEL BASTOS

バスターズ移住地又各方面の御視察者には特別御便利を計ります
汽車發着の度に御出迎ひ致します
●親切清潔●
●正直本位●
弊館の自動車一三四番を御利用下さい

藏力哲夫
ランシヤリア調
郵函二二五

内外雜貨商
農産物仲買

奥村商店
奥山濱作
ノロエステ線グワキカラ驛

◆産兒制限◆
◆月經不順◆
専門 水澤武美
パウリス市・郵函一一五

最も經濟的で滋養に富む

和々々

宿泊料一日六ミル
●歸國呼寄手續等無料●
九州旅館
水本順太
聖市コンデ街四七番
(中央商店上隣)

リンス 山本製菓所

御 西中菓子店
フルタード街五番
電話二八三三

ミリヨと御用は
フエイジョンの
佐伯商店へ
パラナ州カンパラス市
郵函十一號

顧問法法の泰斗原醫學博士
醫學と家傳に即
せる伯國隨一の**名灸**

公認灸灸醫學士勳七等
減灸醫 磯谷牧翁
聖市サンタナ郵函三〇八

歸國呼寄手續、就職斡旋等
親切に無料にて致します

宿泊料一日六ミル
食 事一回一軒五百
カ マー 一晚二軒五百
カ フェー 五百レリス

聖市アベニード
エステリオール街六九
元メルカド野菜卸場前

壽旅館

T-KAKO Rua X 65a 63
Mercado Municipal
Tel. 3-0322 End. Teleg. Laranja, Rio

農産物
委託販賣
リオ市

加古商店
多少に不拘弊店を
御利用下さい

Arthur Vianna & Cia. Ltda.
Rua São Bento, 14 - S. Paulo

アルセニオ
スルファト
噴霧器
智利硝石
及び各種肥料

アルツール
ヒアンナ商會
聖市サンベント街
四

Enxada "BUGRE"

無敵の
エンシヤード
全國一流店にあり




BUTANTAN

月賦拂ひ
月三五ミルより

驚異の特典

明朗健康なブタンタンの模範區、區劃整然道路完備、
アベニード・ヴァイタル・ブラジル(コンクリート舗装)
より數歩の距離、コンパニア・シチーより次の如き好
条件にてその絶好ロツテを區劃分讓す

契約後直ちに建築開始さるる場合は二〇、二五乃至三〇パーセント迄
の割引、煉瓦無償提供、設計は無料奉仕(二階建、平家建十種様式契約
者の任意とす)

今日只今にも御自分の家を容易に建築し得る様、右絶
好のロツテ中より貴君のロツテを御選擇あれ

COMPANHIA CITY
南米一の都市土地建物會社 聖市創立一九一二年
50, LIBERO BADARÓ

母國訪問の皆様に

母國御訪問の皆様のために今回特別に
皆様の御便利を計るべく當館には左
の係りを設け親切、丁寧を第一とし
てみな様のためにサービスする事に
致しましたから何卒御利用下さい

◆歸國手續係り
一切の手續きを無料にてわすか一日
で完了致します故御出帆迄御自由
に各所御見物が出来ます

◆御土産物係り
尙ブラジル品で日本にて珍しがら
る左の品々を最も安く御世話致しま
す、ブラジル特産ステッキ、珈琲エキ
ス、チヨコラツテ、毛皮類、繪葉書類

◆御荷物係り
御歸國の際一番御不安の御荷物は當
館宛御送附下されば一切無料にて御
預り致し破損等のおそれあるものは
親切に修理して御乗船の時責任を以
て積込み致します

◆御出迎係り
御不馴れのサントス市内にはイン
キタキシーが多いため毎列車毎に驛
に御出迎え致して居ります故御用命
下されば直ちに静かな當館へ親切に
御案内致します

尙兩替並に御不審の點は御問合せ下されば直ちに詳細御返信致します

大坂商船指定切符 **潮ホテル** サントス市プラス
取次所 クーバス街二三九
Rua Erasz Cubas, 23 - Caixa, 28 - Tel. 5131 - End Teleg. "USHIHU" - Santos

**住宅地に
果樹園に**

ビーラ・パウリスタの出現

聖市より汽車にて三十分
イタケララ驛より千五百米
イタケララ町に接続し
イタケララ植民地に隣接す

ビーラ・パウリスタの特色

氣候良好別荘地として最も有望
子弟の勉學に最上
地價低廉、住宅建築に好條件を有す
百聞不如一見是非一度
御視察を御待ち致します

詳細は **SOCIEDADE ITAQUEIRA LTDA.**
Rua São Bento, 7 - sobrado - S. Paulo
K. Jofima - Itaquera - E. F. C. B.

又はイタケラ驛前代理人 **城島慶次郎**

SUL AMERICA
Terrestres, Maritimos e Accidentes
Companhia de Seguros
São Paulo - Rua Boa Vista, 31 - 5º and.

**スール・アメリカ
陸上海上傷害保險會社**

資本 金
國庫納入保證金 二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一九三三年度總收入 一七、二八四、九三四、五一一

最高の保險料金徴收
一六、八四一、一〇八、一八二

全伯國同種會社中一九三三年に實に左の如く

.....保險種目.....
火災・海上・鐵道・勞働傷害・自動車及び信
用保險

スール・アメリカ内國生命保險會社經營
聖市支店ボア・ピスタ街三一 番五階
電話二・三一二三 郵函七〇二

夕涼閑談

伯 眠 生 (5)

早播

きの米もとうちの米も... 早播の米は...

辰

辰の... 辰の日は...

人

人は... 人は何を...

私

私が... 私に...

老大人

老大人... 老大人は...

借地

借地... 借地は...

裁縫教授

裁縫教授... 裁縫の...

極め

極め... 極める...

視

視... 視る...

未

未... 未だ...

梅毒妙薬... 梅毒妙薬の...

CASA BOCCHINI... 好機... 借地...

R. M. KUMETA... 診察時間... 午後七時...

至急募集... 日伯両語を解する...

料理人一名入用... 日本料理に充分経験の...

借地... 場所 マリアより十四...

百家族棉作者募集... アルタ・ソロカバナの...

Para grande plantação de Algodão... José Augusto de Rodrigues...

ウニオン植民會社... 聖市事務所...

裁縫教授... Escola Moderna... 元ポニータ街...

SEZUKA... 地下に冬眠してゐた...

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XXI

São Paulo - Quarta-feira, 13 de Fevereiro de 1935

Num. 922

Noticias e telegrammas do Nippon

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornaes)

NIPPAK SHIMBUN

Director-Proprietario:
SACK MIURA
Redacção, Administração e Officinas
Rua da Liberdade, 144-A e 146
Caixa Postal, 375
Telephone 2-3926
Endereço Telegrafico: "Nippak"
SÃO PAULO - Brasil
ASSIGNATURAS
Para o Brasil
Por anno 30\$000
Por semestre 16\$000
Número avulso \$500
Para o Exterior
Por anno 60\$000
Anuncios
Temos á disposição dos interessados
uma labela completa de preços para
anuncios nesta folha. Telephone 2-3926

"Kinguensetsu" Aniversario da fundação do Imperio

Realizaram-se em 11 do corrente mez, em todo o Imperio Nipponico os festejos tradicionais da fundação do paiz, que passou pelo seu 2.595.º anno.

Essas festas, denominadas "Kinguensetsu" foram commemoradas em toda a nação.

Na estação transmissora J. O. A. K. de Tokio, falaram o primeiro ministro, almirante Okada e o ministro do Interior, sr. Kato, tendo como assumpto a fundação do paiz.

Augmenta o numero de turistas ao Nippon

Em vista do incremento que augmenta o numero de visitantes ao paiz do Sol Nascente, que durante o anno passado attingiu a cerca de um acrescimo de trinta mil, em comparação com o anno anterior, o Departamento de Turismo de Tokio resolveu construir varios hotéis antes da proxima primavera.

A somma de dinheiro gasta pelos turistas em 1934 é calculada em quarenta e tres milhões de yens.

Politica Naval Nipponica

O almirante Osumi, falando á Dieta do Imperio, fez uma exposição da politica naval do governo, que vem sendo interpretada em alguns circulos como tendente a abrir caminho para um novo accordo com os Estados Unidos, affectando as fortificações do Pacifico.

Em suas palavras testuaes, lemos o que o almirante Osumi declarou:

"As restricções existentes a respeito das fortificações do

Nippon e dos Estados Unidos no Pacifico são desvantajosas para o Nippon, devido á expansão continua das forças aéreas chinezas. O Nippon comquanto não se opponha a fazer propostas presentemente, está encarando já a possibilidade de um entendimento. Não nos oppomos a accordos separados e estamos promptos a considerar, com a melhor boa vontade, outras propostas".

O maior Hospital do Oriente

Vae-se iniciar, em abril proximo a construcção do hospital da Faculdade de Medicina de Osaka, que será o maior do Oriente.

A area total do hospital será de 128,208 metros quadrados e poderá recolher 16.000 doentes (18 de classe especial, 220 de primeira, 450 de segundr, 550 de Terceira e 320 gratuitos para estudo pela faculdade). O custo da construcção foi avaliado em 11.000.000 de yens. (cerca de cincenta mil contos em moeda brasileira), terá oito andares, ficando no ultimo d'elles os banheiros de sol, piscina os jardins zoologico e botânico, o tanque para pesca, os quartos resfriados e aquecidos, as camaras de ozono, etc. etc;

Politica armamentista do governo nipponico

No seu discurso pronunciado em 9 deste mez em Chicago, o embaixador nipponico, sr. Saito lembrou que os Estados Unidos estão geographicamente livres de uma invasão, "não exceptuando a hypothese de vosso paiz degenerar e desintegrar-se internamente, jamais poderia ser elle ameaçado de fóra".

Emquanto isso, o Nippon sentiu no passado a ameaça dos occidentaes e a febre da usurpação dos seus vizinhos da Asia. "Fazem apenas 31 annos que a Russia mantinha uma poderosa base naval ao norte do Pacifico, e que correu a travéz da Mandchuria com as suas tropas, ameaçando dominar a Coréa que estava situada do outro lado do estreito do Nippon. E ha somente oito annos que a Russia do Soviets tentou dominar os negocios da China. Não é natural, portanto, que o Nippon tome medidas no sentido de manter a sua propria segurança? Uma outra qualquer, nação em situação similar, não tomaria as mesmas precauções? Nós estamos interessados na China por duas razões fundamentais: — a maioria das nações occidentaes está interessada somente no commercio chinês. Em face da proximidade geographica estamos tambem interessados na integridade da independencia chineza.

O Nippon teve que enfrentar no passado uma serie de poderosas ameaças. O nosso povo espera ardentemente que essas ameaças atinjam ao seu fim. Mas emquanto as condições da China não permittirem uma reacção contra as aventuras das nações do Oriente, o Nippon deve estar preparado para as eventualidades".

NOTAS AGRICOLAS

Os brotos do algodão

Os brotos e as folhas novas do algodão constituem o melhor pasto para o "coruqueré" e, dahi, a necessidade que tem o lavrador de uma fiscalização frequente e rigorosa, acompanhada das respectivas pulverizações com arseniato de chumbo.

Isso acontece porque o "coruqueré" tem um paladar um tanto delicado e o seu aparelho bucal, quando ainda jovem a lagarta, não póde, com facilidade, devorar as folhas velhas, bastante duras, como são as do algodoeiro. Alguem aconselha a "capação" como uma medida de combate ao "coruqueré", todavia, não temos experiencias pessoais que endosse esse conselho. Seria, pois, conveniente que os proprios lavradores fizessem, em uma pequena área da lavoura, uma experiencia nesse sentido.

Cada lavrador deve ser um experimentador, mormente, o de algodão porque não podemos entender agricultura sem experiencias, sem estudos e, cada um, os fará de accôrdo com as suas possibilidades, tanto do lado intellectual, mas, que tenham um solido assentamento no bom senso, pelo menos, se lhes faltar o espirito da sciencia.

Essa questão dos brotos do algodoeiro, a capação do broto principal quando as plantas attingirem 50 centímetros de altura, tudo isso, hoje tão controvertido, deve

ser experimentado em cada zona para que cada agricultor tire as suas conclusões.

Se inspecionarmos, com frequencia, o algodão, mas, desprezarmos os tratamentos preventivos e combativos no momento optimo, apropriado, será completa ou parcialmente nullo o esforço, pois, o "coruqueré", como temos dito é uma praga de voracidade assustadora.

Não convém esquecer que esses tratamentos consistem em pulverizações com os arseniados de chumbo em pó e em pasta, com o arseniato de calcio ou com o verde Paris.

Aqui damos as formulas dessas caldas para que tenham a maior divulgação possivel e chegue em todos os recantos do Estado.

- Agua 100 litros
- Verde Paris "Jupiter" . . . 250 gra.
- Farinha de trigo ou cal extincta 200 gra.
- Agua 100 litros
- Arseniato de Calcio "Jupiter" 250 gra.
- Agua 100 litros
- Arseniato de chumbo em pó "Jupiter" 350 gra.
- Agua 100 litros
- Arseniato de chumbo em pasta "Jupiter" 400 600 g

Caso a pulverização queime as folhas adicione-se um a dois kilos de cal de cada formula.

Nipponica, a linha Tokio Osaka distendeu-se até Fukuoka, e, na direcção da Coréa, até Dairen. Essa estrada transoceanica constitue a espinha dorsal do sistema aereo nipponico, uma vez que reduz extraordinariamente o tempo de quantos passageiros demandam a Coréa e a Mandchuria.

O Estado de Mandchu Koku, recentemente creado, veiu rasgar novas perspectivas á aviação commerciel, collocando todo o movimento aviatorio civil sob a dependencia da Companhia de Transporte Aereo da Mandchuria, o Governo nipponico contribuiu para que, depois de quatro mezes apenas de constituição dessa nova Companhia 3.160 kilometros de percurso fossem abertos ao trafego. O serviço de passageiros e de cargas liga, actualmente, as seguintes cidades: Dairen e Mukden, Changchun e Harbin, Shingishu e Mukden, Chandchun, Kirin e Inchingtsun. Harbin e Ninggan, Harbin e Fuchin, Harbin e Tsitsihar, e Tsitsihar e Manchullii.

Além dessas ligações, ha presentemente uma linha directa entre a capital do Imperio, Tokio, e Tsitsihar, onde o serviço aereo nipponico opera a ligação com o serviço mandchuriano, nas fronteiras da Coréa. Sem duvida alguma, é essa a mais promissora das linhas internacionaes, porquanto, no futuro, pode ser o primeiro ponto de contacto com a Europa, uma vez que a Russia estende agora a sua linha aerea entre Irkutsk e Manchullii. Desde a pacificação da Provincia de Jehol pelo Exercito nipponico, o serviço commerciel aereo do Mandchu Koku dilatou se no sentido de connectar Mukden com Chinchow e a cidade de Jehol.

Como se vê desta rapida analyse, o Nippon possui contemporaneamente uma das organizações de aviação commerciel mais perfeitas e completas do mundo.

TYP. "NIPPAK" Distribuidora exclusiva para o Brasil dos discos japonezes COLUMBIA

Será resolvido, em breve, o incidente entre o Nippon e a China

Informações de fontes fidedignas, provenientes de Tokio e Pekim, noticiam que dentro em breves dias, será solucionada a questão entre nipponicos e chinezes, ora em conflicto na região de Jehol.

As mesmas informações adiantam que a situação creada, terá uma conclusão amistosa de paz entre as duas nações do Extremo Oriente.

Membro da Corte Permanente

Noticias telegraphicas provenientes de Tokio, informam que o dr. Haniche Nagaoka, ex-embaixador em Paris, foi nomeado membro do Conselho Permanente de Arbitragem do Nippon, junto á Corte de Justiça de Haya.

A pesca no Nippon

O archipelago do Imperio Nipponico, composto de milhares de ilhas de pequena dimensão, não tem quasi nada de campos proprios para grandes criações.

Para supprir a falta de alimentos de substancia animal, tiveram os seus habitantes que recorrer á industria da pesca, desde a antiguidade.

A industria maritima é, pois, uma das industrias basicas do paiz.

A população que se dedica á pesca, incluindo a das colônias, é calculada em nove milhões, ou seja cerca de 10 % da população total.

O Japão produz, annualmente, 4.615.000 toneladas de pesca cujo valor, em 1930, foi calculado em 471.000.000 de yens e representa 24 % do valor da pesca mundial.

Lampadas electricas

Cerca da metade dos lares da Republica Argentina são hoje illuminados por lampadas electricas nipponicas.

Pelas ultimas estatísticas de importação do anno de 1933, o valor das lampadas incandescentes entradas naquella paiz somou 2.240.000 pesos, dos quaes 1.002.000 pesos correspondem ás lampadas "made in Japan".

O Nippon em face do Tratado Naval de Washington

Uma agencia telegraphica de Tokio, forneceu aos jornaes daquela capital o seguinte commentario em torno da questão naval, abordando a posição do Nippon em face do Tratado Naval de Washington:

"O Nippon está prompto a aceitar todas as propostas que tendam a modificar ou a manter as clausulas do Tratado de Washington, prevenido a limitação de fortificações no Pacifico" — declarou o ministro da Marinha, quando se discutiam os creditos orçamentarios na Camara dos Representantes.

A esse proposito o ministro observou que as clausulas que prohibem actualmente a construcção de fortificações são mais desfavoraveis ao Nippon do que a qualquer outra potencia. Essa prohibição é extensiva ás Ilhas Benin, dos Pescadores e Kurilas, quando o "statu-quo" não pode ser mantido para as ilhas Aleutas, Guan e Philippinas. De outra parte, os fortes da Costa do Hawaii são reforçados afim de assegurar a protecção de toda a esquadra americana, ao mesmo tempo que a Inglaterra constróe poderosa base naval, em Singapura.

Emfim, a poderosa aviação que a China está criando com o auxilio de potencias estrangeiras colloca em serio perigo a Ilha Formosa.

Taes são razões por que os meios navaes japonezes acham necessario, para a segurança do Pacifico, que nenhuma fortificação seja construida, principalmente no Hawaii e Singapura".

Descoberta de um sóro conta a variola

Foi annunciado pelo sr. Hidetake Kaoi, grande cientista nipponico, a descoberta de um sóro de cabra que faz diminuir em grande parte a desfiguração ocasionada pela variola, especialmente no rosto das pessoas atacadas dessa horrivel molestia.

Em Abril será annunciada oficialmente a grande descoberta. O dr. Kaoi que pertence ao Instituto de Epidemiologia de Tokio, já tratou de centenas de pessoas com resultados satisfactorios.

AVIAÇÃO

O progresso e a grandeza da aviação commerciel no Imperio nipponico

Comquanto de estabelecimento recente e operando em um paiz de pequenas distancias entre os seus maiores nucleos demographicos, a aviação commerciel realizou ultimamente progressos notaveis. Hoje em dia, o Nippon dispõe de 9.000 kilometros de linhas aereas regulares, realizando vôs em uma extensão superior a 2.000.000 kilometros por anno. Todas as linhas estão limitadas ao Nippon propriamente dito, com excepção apenas do serviço para Dairen. O trafego aereo internacional agora é que começa a ser objecto de interesse immediato por parte do Governo e das companhias de navegação; e uma linha directa para Shanghai, na China, abrir-se-á desde que se obtenha para tal fim a autorização do Governo da China.

A aviação commerciel nipponica teve o seu inicio ha cerca de 10 annos. Tanto a opinião publica nacional como a consciencia governamental, a par dos feitos levados a effeito por outros paizes, forçaram o advento de um novo interesse pela politica aviatoria, dentro do paiz. Em 1920, o Departamento de Aeronautica foi fundado, marcando, destarte, um novo periodo na historia aerea do Imperio.

Apenas em 1928, no entanto, e que progresso sensivel foi concretizado. Os fundos necessarios á movimentação e á organização das companhias até então eram limitados. Neste anno, tres medidas de grande alcance tiveram andamento, reflectindo-se de maneira positiva e auspiciosa sobre o incremento aviatorio no paiz. A primeira consistiu na provisão do estabelecimento de uma linha internacional. A segunda, na approvação do estabelecimento de uma companhia com uma capitalização de 10.000.000 de "yen", destinada ao transporte de passageiros, carga e correspondencia, recebendo do Governo um subsidio na im-

portancia de 19.970.000 de "yen", em um periodo de 11 annos. A terceira, na passagem de uma lei sobre a aviação.

Antes dessa época, existia tão somente o serviço aereo ligando as cidades de Tokio e Osaka. Osaka a Fukuoka, Osaka a Oita. A linha entre Osaka e Tokio estava em poder dos grupos jornalísticos "Asahi", tendo sido estabelecida em 1923. Os aeroplanos usados serviam de ligação jornalística entre os dois poderosos jornaes, conduzindo photographias, manuscritos e outros materiaes.

A partir, porém, de 1928, graças ao ao estabelecimento da Companhia de Transporte Aereo

IMPRESSOS?

Executam-se com rapidez e perfeição na Secção de Obras do

"NIPPAK SHIMBUN"

Fabrica de Saccos de Papel para Armazens, Bars e Confeitarias
Rua da Liberdade, 146 - Caixa, 375
Telephone, 2-3926 - SÃO PAULO